

鳥取市 協働事業事例集

ダイジェスト版

～協働のまちづくりのススメ～

協働事例 目次

事例 1 / 中ノ郷ふるさとづくり協議会の取り組み	2
事例 2 / 国府町上地地区の取り組み	2
事例 3 / 五臓圓ビル再生支援事業	3
事例 4 / 過疎地有償運送者支援事業	4

すすめよう協働のまちづくり

本市では、平成 23 年度を「協働のまちづくりの着実な前進の年」として位置づけ、市民が主役の協働によるまちづくりをすすめています。協働のまちづくりで“人を大切に作るまち鳥取市”を築きましょう。



● 協働事業事例集

市内で行われている協働の具体的な事例をまとめた『協働事業事例集』を作成しました。

この事例集は、みなさまに身近な協働の取り組みを掲載しています。市ホームページ等で紹介していますので、是非ご覧ください。

本リーフレットは、『協働事業事例集』の中から、
「地域コミュニティ」
「中山間地域振興」
「中心市街地活性化」
「市民活動」の視点を基に、
 4 事例を抜粋して紹介しています。



● 鳥取市自治基本条例

市民、議会、行政の三者協働により、取組が進められました「鳥取市自治基本条例」が、平成 20 年 10 月 1 日に施行されました。

この条例は、本市の自治の基本理念を明らかにするとともに、市民及び市の権利、役割及び責務、市政運営のあり方などを定め、参画と協働のまちづくりを推進することにより、もって将来に向けて豊かな地域社会の創造に資することを目的としています。

この条例は、制定されることだけが目的ではなく、制定をスタートラインとして市民のみなさんに十分浸透し、まちづくりの指針として有効に活用されることが重要です。これにより、「市民が主役の協働のまちづくり」が一層推進されるとともに、計画的・体系的で透明性の高い行政運営が行われ、本市が持続的に発展していくものと考えています。

本年度は条例施行から 3 年目となります。これからも協働のまちづくりが着実に前進するよう、みんなで取り組んでいきましょう。



伝統文化の継承「子どもみこし」

◆協働のパートナー

中ノ郷ふるさとづくり協議会
中ノ郷地区公民館
企画推進部協働推進課

◆参 考

地域コミュニティ育成支援事業交付金（協働のまちづくり助成事業）

本市では、まちづくり協議会が地域コミュニティの充実強化を図ることを目的に実施する事業に対し、経費の一部を支援しています。

『地域課題解決』

まちづくり協議会 の取り組み



わじっ子倶楽部

◆協働のパートナー

扇の里村づくり推進委員会
国府町総合支所産業建設課

事例1 中ノ郷ふるさとづくり協議会の取り組み

地域課題の解決に取り組むため、地域で作成した地域コミュニティ計画に基づき事業を実施しています。

「伝統文化の継承・発展・創造」、「健康・安全・福祉の充実」、「世代間交流の推進」を三つの柱として、しゃんしゃん傘踊りへの参加、伝統芸能交流発表会、子どもみこしパレード、子ども見守り活動、地区防災訓練、ふれあい肝試し、ふれあい収穫祭などの事業を実施し、地域全体が心の通う“ふるさと”となるよう事業を実施しています。

地域コミュニティ計画の実施によって、次の効果を期待しています。

- ① 子どもに夢を高齢者に生き甲斐を広げること。
- ② 中ノ郷地区の魅力を再認識し、地域に誇りと愛着心を持って住むこと。
- ③ 伝統文化に関心を持ち、地域活動に積極的に参加しようとする意識を高めること。
- ④ 住民相互の交流が深まり、笑顔と会話が弾む明るいまちにすること。
- ⑤ 世代を超えて住民の連帯意識が高まり、安全で安心なまちにすること。
- ⑥ 小中高校生など若い人が地域のイベントに参画し、まちづくりに新しい息吹を取り入れること。

◆事業実施者のコメント

平成22年2月、協議会の事業等について、全世帯を対象にアンケート調査を実施しました。全体として約6割が「活気あふれるまちづくりが進んでいる」と回答され、初年度としてはまずまずの成果があったと感謝しています。

また、当協議会が平成21年度鳥取県優良地縁団体表彰を受賞しましたが、これは、「地域コミュニティ計画をいち早く作成したこと」「地域の伝統芸能の継承等を通じて世代間交流を積極的に推進していること」などが、他の地域の見本になっていることが評価されたものです。

今後も、地域の皆様のご意見や感想などを踏まえた事業を展開していきますので、積極的なご協力をお願いします。

事例2 国府町上地地区の取り組み

扇ノ山の麓の上上地・上地の2集落で、「扇の里村づくり推進委員会」を平成5年に結成し、子どもから高齢者まで集まり、「何とかこの村を賑やかにしたい!」という思いで「夜なべ談議」と称し、話し合いを行ったのが集落活性化の始まりです。現在は、「扇の里村づくり推進委員会」を中心に、上地地区全体で行う農業体験交流「わじっ子倶楽部」や、農家関係者を中心とした京ヶ原水路の清掃ボランティア「棚田保全応援隊」、地元で採れた農産物を使って特産品づくりに取り組む「扇の里グループ」など、子どもから大人まで楽しめるグリーンツーリズムで、都市との交流事業を積極的に行っています。

❖ 事業実施者のコメント

過疎・高齢化が進む中山間地域で様々なイベントを定期的で開催し、継続し続けたことで、上地ファンも年々増加し、活気のある村づくりにつながっています。子どもたちと交流するなかで役割意識が高まり、教え、伝える、交流することがやりがいや喜びにつながり、高齢者の生きがいになっています。

今後も、「高齢者、若者、一人暮らし、みんなで集まって元気で暮らしていきたい」という想いを大切に地区のコミュニティ機能として、だれもが生き生きと楽しく活動を継続していきたいと考えています。

また、山陰海岸ジオパーク「扇ノ山エリア」の特色を活かし、さらなる観光資源の開発、交流人口の増加を目指し、活動したいと考えています。

中山間地域における むらづくりのモデル



事例3 五臓圓ビル再生支援事業

智頭街道、街のシンボルである「五臓圓ビル」が築80年を経過したことにより、取り壊しの危機にありました。歴史的建造物を守ろうと地元商店街が中心となり、保存活用をめざして会社を立ち上げました。趣旨に賛同する市民、行政と一緒に五臓圓ビルを再生しようと取り組みました。

その結果、五臓圓ビルは街のシンボルにふさわしく美しい外観がよみがえり、街の人が集う施設として、1階は「癒しとくつろぎ」をコンセプトとした五臓圓薬局、交流スペース、2階はカフェとギャラリー、3階は鳥取大学と連携したものづくりの拠点に整備され、街の特色である文化・芸術あふれるまちづくりを推し進めています。

中心市街地活性化に向けた取り組み

❖ 事業実施者のコメント

智頭街道商店街は、近年衰退してきた商店街の一つですが、画材、美術品、ギャラリー、楽器販売、音楽教室等の文化を提供する業種が揃っています。五臓圓ビルの保存活用をきっかけに、智頭街道商店街振興組合としても「芸術・文化あふれる商業エリアの構築」を基本コンセプトとした活性化の方針を固めました。また、事業を早期に実施する事業主体として、組合員有志を中心に「街づくり株式会社いちろく」を設立しました。「いちろく」の名前は、かつて智頭街道が1と6の付く日に市を開き大勢の人で賑わったことに由来し、往時の賑わいを取り戻そうという願いが込められています。五臓圓ビル改修工事には、平成22年8月から着手し、1階五臓圓薬局、2階街づくり株式会社いちろく直営ギャラリー、カフェ、3階には鳥取大学「まちなか工房」・「まちなかキャンパス」が入居し、平成23年3月26日にリニューアルオープンしました。工事期間中は、ビルの内覧会、工事中に出たスクラッチタイルを使ったイベント等を行い、五臓圓ビルの認知度を高める活動も行ってきました。五臓圓ビルの再生が、智頭街道商店街の「元気」を呼び起こす契機となり、活気ある商店街になるように事業を進めていきたいと思っております。

◆ 協働のパートナー

街づくり会社いちろく
経済観光部経済戦略課

◆ 参 考

五臓圓ビル再生支援事業費

本市では、商店街の賑わいを創出する拠点施設として、国の事業採択を受けた五臓圓ビル改築費用を補助しています。



まちなかカフェ



事例4 過疎地有償運送者支援事業

NPO法人OMU（佐々木昌彦理事長）は、有償ボランティアバスの運行を目的として、平成20年11月に設立されました。OMUが運行する「ふるさとバス」は、路線バスが運行していない、大郷・御熊・内海中地区において、高齢者等の通院・買い物等に利用され、集落と公民館や駅を結ぶ地域の貴重な交通手段として大きな役割を果たしています。

OMUとは運行エリアの「大郷（おおさと）」「御熊（みくま）」「内海中（うつみなか）」の各地域の頭文字からとったもので、「地域の繋がり」を思いに託しています。

◆協働のパートナー

NPO法人OMU
都市整備部都市企画課交通政策室

◆参考

過疎地有償運送者支援事業費補助金（県と協調して補助）

○運行事業

営業費用から営業収益を差し引いて得た額の合計額（営業費用の8/10を限度）に2分の1を乗じて得た額を補助

○車両等設備整備事業

車両、通信関連機器購入など事業実施にあたっての初期投資費用に2分の1を乗じて得た額を補助（限度額1,000千円）

❖事業実施者のコメント

運営経費、ボランティア運転手の確保等、苦勞は挙げればきりがありません。運転手も「いずれは自分もバスの世話になる、地域で支え合わないけん」という気持ちで忙しい中運行に協力してくれています。行政の更なる協力と、高齢化するボランティア運転手の確保等、安定した運営を模索し、将来への道筋を皆でつけていきたい。もちろん、利用者の意見も聞いて、「ありがとう」の声をいただける生活に密着した「ふるさとバス」であり続けたいと考えています。

NPO、ボランティア、市民活動の取り組み



あなたのまちに
この一本!!

キョウドウV

効果

市民と市が「協働のまちづくり」に取り組むことで、次のような効果をもたらします。

●市民サービスの向上

市民ニーズに合ったきめ細かいサービスが実現できます。

●自治意識の高まり

市民が自主的に地域の課題解決に向けた取組を進めることで、市民の連帯感や自治意識が高まり自立したまちづくりができます。

●コミュニティの活性化

協働のまちづくりを進めることで、市民同士の参加・協力・交流が深まり、地域活動が活発になり、コミュニティの活性化が図られます。

みんなですすめよう
協働のまちづくり



発行 鳥取市企画推進部協働推進課

鳥取市尚徳町116 本庁舎3階
電話 0857-20-3182 FAX 0857-21-1594
Email: kyodosuishin@city.tottori.lg.jp

市ホームページもご覧ください

<http://www.city.tottori.lg.jp/>